

平成 27 年 12 月 4 日

各位

相場操縦に関する報道の件について

村上世彰

現在、私の関係会社が株式会社 TSI ホールディングス（以下「TSI」といいます。）株式の取引において、相場操縦を行い不当な利益を得たという報道がなされております。しかしながら、私は、長年関わってきた株式市場を裏切るような相場操縦をする意図も理由もなく、また市場を混乱させたようなこともありません。特に、私にとって TSI はその前身である東京スタイル時代も含めると 15 年以上も株主として資本効率の改善、株主価値の向上を提案し続けてきた思い入れのある会社であり（これまでの私の取り組みを添付しています）、私がこのような中で、相場操縦するという事は、私の理念と相反することです。以下に簡単に私から本件を説明させていただきます。

1. 相場操縦をする意図も理由もないこと

私は、TSI 株について、相場操縦の要件とされる不当に取引を誘引する目的もなく、株価を下げる意図もなく、動機もありませんでした。TSI の株価が下がることは、関係会社で TSI 株を多数保有している私にとっては、自分の保有資産の減少を意味するので、マイナスであることは明らかです（2014 年 5 月末時点での保有株数は約 400 万株、6 月末で約 280 万株、7 月末で約 140 万株であり、最終的に TSI 株を全株売却したのは 2015 年の 1 月頃です）。私は当時、主力投資銘柄であったアコーディア株式の投資資金を確保するために TSI 株をできるだけ高く（できる限り株価が下がらないようにして）売ることを考えていました。

2. 借名口座は使っていないこと

また一部の報道機関では他人名義の複数口座を使う借名取引によって、空売りで大量の売買を行いながら、株価を不正に下げ、利益をあげたと報道されていますが、そのような事実は全くございません。事実といたしましては、関係会社（私が実質的に 50%ないし 100% 保有しており、いずれも私が株式売買の発注権限を持っています）で当時 400 万株程度保有していた TSI 株を、借名取引ではなく、当該関係会社で空売りを先行させて、最終的には、関係会社自身で保有していた現物株とトストネット取引にてそれを決済しただけのことです。実態としては、自ら保有している現物株を売却しているのと同様です。複数社の口座で空売りを行った理由は、現物を売却するのではなく、空売りをを用いることによって実質保有株数を減少させたとしても、株主名簿上の議決権を維持し、引き続き企業価値向上のための影響を TSI 経営陣に与えるためです。また各社それぞれの資金調達の問題等もありま

した。

3. 空売り自体が市場に誤解を与えるものではないこと

空売り自体が悪いというような報道も見受けましたが、空売りという手法は株式市場で古くから一般的に使われる手法であり、証券取引所もこれを認めているものです。空売りを使うこと自体は株式市場から見た場合、現物・信用の売りについても「売り」は「売り」であり、市場で注文の区別はなされないため、市場参加者を混乱させることはありません。また、複数の関係会社は全て同じ証券会社にて注文を出していますので、株式市場に伝わる情報の一つである手口としては同一の一社の証券会社名で公表されるため、この情報が市場を攪乱したと考えることはできませんし、元々そのような意図と結びつきのない取引手法です。

そもそも相場操縦というのは、時価総額が 500 億円を超えるような比較的規模および取引量の大きい株式では、①大量の見せ玉、②自己クロスによる出来高増加、③風説の流布、などを用いずに行うことは事実上不可能だと思われまます。私は上記の 3 点の手法は一切使っておりません。

本件の全容は、私からも SESC へきちんとご説明申し上げ、私の無実が明かされるものと信じております。

以上